

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

第16回楠祭が無事終了しました。感謝申し上げます！！



前南で約7年ぶりに一般の方を招いた文化祭（楠祭）が開催されました。コロナの影響により3年前の楠祭は校内発表のみで、大々的に行う楠祭に対し、教員・生徒ともども何から手をつけていいのかわからない状況からスタートしました。その中でも他校の取組を参考にしながら、キッチンカーの導入、シャトルバスの活用、また地域の企業である吉田鉄工所や前橋工科大学の駐車場を利用した一般の方々向けの駐車場の提供など今までにないことを取り入れ、結果としては成功を収めたように思います。生徒会・文化祭実行委員も昨年度からイチから準備し、楠祭を運営するなかで、さまざまな経験、そして得た力があつたように感じます。今回は生徒会が楠祭で取り入れた『楠祭でのスマホの活用』について、楠祭を終えての生徒会本部役員・文化祭実行委員長の言葉を紹介していきます！



1. 楠祭での「生徒のスマホの活用」についての新たな取組について



生徒会によるスマホの使い方についての説明

4月中旬に生徒会本部役員が『楠祭初日（校内発表日）の生徒のスマホ使用ルール』のプレゼン資料を作成し、生徒指導主事に説明を行いました。この提案は生徒会本部役員の八木悠翔くん（2年生徒会会計）が『生徒自身がスマホと向き合い、セルフコントロールする力が必要ではないか』という思いからスタートし、楠祭の校内発表日にこのルールで実施できるように準備していきました。目的やルールをまとめ、職員への周知はもちろん生徒にこの取組を理解してもらうために、ポスターの作成や各教室に行き、企画の趣旨の説明を行いました。校内発表日のみに限定したものでしたが、生徒たちは自身のクラス企画を写真に撮るなど、ルールを守りながら活用できていました。

2. 楠祭を終えて（文化祭実行委員長・生徒会本部役員の声）

第16回楠祭にお越しいただきありがとうございました。当日は3,000人近くの方がお越しいただいたということで怒涛の1日でしたが無事に終わることができて大変嬉しいです。実行委員長として**やるべきこと、できることを率先して動けた**と思いました。前南生そして一般のみなさんの笑顔が見られたので文化祭は大成功だと思っています。本当にありがとうございました。（3年 宮下 壘 文化祭実行委員長）

先生方・生徒にとってほとんどが初めての文化祭であり、不安や緊張感もあるなか、準備を進めてきました。生徒会長ということもあり、プレッシャーはものすごく感じていましたが、生徒会、実行委員のメンバーと協力し最高の文化祭に仕上げることができたと感じました。自分自身にとっても素晴らしい経験であり、文化祭の期間を通し、また**一つ成長できた**と感じました。また、ここまで協力していただいた生徒、先生方には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。（3年 荒木皓陽 生徒会長）



先生方含めほとんどが勝手の分からぬまま始まった第16回楠祭は目立った問題もなく終了しました。そして細々とした問題はあれど無事に開催できたことでこれから行動を起こす時、その自信の源になっていくと私は考えています。楠祭で経験できた良い点、改善点を通して非認知能力の1つである**忍耐力を伸ばすことができたのではないかと感じています**。私は文化祭の直前に怪我をしてしまい当日思い通りにいかない場面が何度かありました。しかしそこで何も出来ないと諦めるのではなく、**自分でもできる仕事はなんだろうと**探し、それを実行することができました。中学への告知や文化祭の運営等、生徒会の面々また協力して下さった先生及び実行委員がいたからこそ無事に終わらすことができました。**たとえ不得意なことがあったとしても得意なことで役に立てるように動けばいい**。そういう風に支え合うことで大きな物事に立ち向かうことができるのだと学ぶことが出来ました。(3年 久保駿平 生徒会副会長)



3年生の私達にとって、最初で最後の文化祭までの道のりは、本当に厳しくも充実したものだと思います。例年通りという型が使えないため、現生徒会である私達が自ら考え、議論を重ねて実行することで全く新しい文化祭にできました。この文化祭を通して、**主体性だけでなく仲間と協調して目標に向かう力**も身に付きました。前南がSAHの指定校になったこと、先生方のご協力があったこと、仲間に恵まれたこと、これら全てが組み合わさったことでこのような貴重な経験を積めたと考えています。今回の文化祭を無事に開催できたのは全ての生徒と先生方のご協力あってのものです。本当にありがとうございました！(3年 関 凜音 生徒会副会長)

広報活動、ステージ企画、会場整備、文化祭時のルール、来場者用のスリッパの集計…文化祭を成功させるための裏方の仕事に全力を注ぎました。**私が活動の中で得られたものは非認知能力の1つである「信頼」です。生徒会役員それぞれ得意な仕事を行いその中で『流石彼だから、彼女だから任せられる仕事だな。』と思える場面が何度もあり、何度も助けられました。**また先生方や有志の実行委員がいたからこそやりきれた仕事もたくさんありました。自分もこなせるようになろう、ここは自分が任せてもらった分頑張ろう、と自信ももらえました。学べたものを生かし**これからの活動の可能性**を広げていきたいと思います。(2年 吉田優吾 生徒会書記)



初めてのことばかりで全くなんのイメージもわからないまま文化祭の準備が始まりました。とにかく時間がない！という焦りと不安で頭を抱えていましたが、仲間の一つ一つ解決していこう！という言葉に励まされたり、先輩達の協力のおかげで何とか準備を終える事が出来ました。**私は今回の活動を通して、最後までやり抜く力を身につけることができたと思います。**3年に1度の文化祭を何かなんでも盛り上げたい、全員の記憶に刻まれるような最高の思い出にしたい、そんな思いがありました。**その為にも自分ができることを考え、精一杯頑張りました。**それでも、私一人の力ではどうにもなりません。沢山の人の支えられ、勇気づけられ、皆で作上げた最高の文化祭になったと感じます。**困難や不安に直面しても自分が掲げた目標に向かって進んでいく事の大切さ**を学ぶことが出来ました。(2年 小此木いろは 生徒会書記)

3年に1度の開催、そして7年振りの一般公開ということもあり私達生徒はもちろん先生方もどうすれば良いのか分からず不安から始まった今年度の楠祭。楠祭を運営する立場として生徒**全員が楽しかったと思ってもらえる文化祭**にしたいと考えていました。一般公開では部活の大会があり終盤から参加をさせてもらいましたが来場者の方々がとても楽しそうな顔で帰っていく姿を見て今までの努力が報われたと思いつても嬉しかったです。そして私は**今回の楠祭を経験して協調性を得ることが出来ました**。なんでも自分がやろうとするのではなく**適材適所で準備をしていくことでより仲間との絆が深まった**と思います。今回の楠祭が成功したのは決して1人の力ではありません。楠祭当日まで様々な苦労がありました。それが輝かしい思い出となりました。(3年 福田華那 生徒会会計)

コロナの関係もあり7年ぶりの一般公開となってしまった今回の楠祭は、生徒も先生方も分からないことばかりでした。しかし、**『例年通りに』『前回の反省を活かして』**ということが難しかったからこそ、**自分自身で考え、仲間と協力し、新しい挑戦や工夫**ができたのではないかと思います。裏方で、ステージの上で、クラスで、お客さんや友人の笑顔を見ることが出来て、楠祭が無事開催できたことを本当に嬉しく思いました。皆様、本当にありがとうございました。(2年 堀川 凜 生徒会常任委員)





楠祭を経験して、**前南生の活気と熱気**にとても感動しました。楠祭を開催している『今』を楽しんでいる様子やクラス企画の様子を見ると前南生全員が自分の企画をより良いものにしようとしている姿を見て、楠祭が成功したと感じています。楠祭が終わった後には『楽しかったよ』『ありがとう』という声を前南生や来場して下さった方から聞いて頑張ってたよと実感しました。しかし、次の開催に向け、**楠祭の課題を見つけ課題解決に向けての行動や次回どのように行動すれば良いかの対策を考える必要がある**と思います。自分たちで課題を考え、次どうしたら良いか考えることはSAHに関係することであり、このような**些細なことでも反省点を見つけ自分自身で考えていくことは大切**な事だということを楠祭を通じて得ることが出来ました。(2年 腰高紗依 生徒会常任委員)

具体的にどうしていけば良いのか、紆余曲折しながらも皆で準備を重ねていきました。その間クラス企画、ダンス発表、バンドなどを**生徒一人一人が楽しく真剣に仲間達と切磋琢磨**して取り組む姿を今でも鮮明に覚えています。また、会場の設置や企画・運営などを行った実行委員の皆、係の生徒達、先生方、そして生徒会の仲間達と志を一つにして仕事が出来たことは私にとってとても良い経験になりました。終わってみれば新たな課題が生まれるのもこのような行事の一環だと思います。それを**解決する為に自分達で考えて行動に移すという事の大切さ**を、改めて感じる事が出来ました。(3年 田邊 愁 生徒会常任委員)

私はステージ係の担当しており、準備期間から沢山の話し合いやリハーサルを行いステージ係として活動していく中で気づいたことは**裏方の頑張りのお陰で表舞台が成り立っている**ということです。それは生徒会役員だからというわけではなくクラスのために準備を一生懸命頑張っていたクラスメイトやキッチンカーや駐輪場、広報等様々な係の協力のすべてが、この楠祭の成功に繋がったと思います。今回の**楠祭でみんなで支え合う協調性の大切さ**に気づくことができ最高の楠祭になりました。(3年 飯島 湊 生徒会会計監査)

学校外の方を招いての開催は7年ぶりということで、生徒は勿論のこと、先生方も分からないことだらけで手探り状態の日々でした。しかし、そんな中だからこそ**自分たちには何ができるのか、一人一人が自分自身で考え、主体性を持って行動する**ことが出来ました。その結果、**実践によって非認知能力の育成や理解を深める**ことができたと思います。また、準備期間を含めこの楠祭期間中、僕たち生徒会は裏方として活動してきました。表から見える輝かしく楽しい部分だけでなく、表からでは決して見えない、日の目を浴びることのない**『影の功労者』**がいるからこそ、社会は円滑に回っていくのだということを身をもって体感することが出来ました。この経験は、**社会へ飛び出していく僕らにとって、代えがたい大切な力**となったと思います。(3年 松本悟旺 生徒会会計監査)

自分たちには何ができるのか

仲間と協調して目標に向かう力

解決する為に自分達で考えて行動に移す

新しい挑戦や工夫

自分でもできる仕事を考える 実践によって非認知能力の育成

他者のために動く

成長

活動の可能性

忍耐力

協調性

できることを率先して動く

最後までやり抜く力

主体性

最後までやり抜く力

信頼

課題解決能力

前南生徒会本部役員 Version

上の言葉は生徒会本部役員や実行委員長が楠祭を終えたあとに出た感想の中から『非認知能力』にあたるものを載せました！文化祭の準備の段階や本番の経験の中でたくさんの『学び』を得た結果だと思います。『認知能力』を代表するものが『学力（テストの点数や偏差値）』も社会の中では必要とされる能力です。しかし、今回の経験を通して、着実に生徒たちの『非認知能力』は育っていると感じられました。特にコロナを経た7年ぶりの一般公開であり、生徒たちにとっては『未知との戦い』に感じられ、それを乗り越えることで社会に出たあとも必要な力を獲得したと感じられたことでしょう。文化祭だけでなくさまざまな実践的な経験を通じて、成長できることを祈っています。本当にお疲れ様でした！（生徒会顧問 原澤正樹）



実行委員のみなさん、生徒会のみなさん、全校生徒のみなさん、楠祭の大成功、おめでとうございます！代表生徒のコメントにもありますが、たくさんの苦勞を乗り越えてきましたね！時には意見の対立もあったことでしょう。解決の糸口さえ見えない瞬間もあったでしょう。しかし、そのひとつひとつを『対話』で乗り越えてきたことが素晴らしいことだと思います！社会に出たときの『リハーサル』を十分に果たした文化祭ではなかったでしょうか。さあ、1、2年生のみなさん、来年は実施？見送り？みなさんの周りの人との話し合いが『あす』につながります！♪高ければ高い壁の方が登ったとき気持ちいいもんな♪って歌詞が思い出されました笑（教頭：星野 亨）

★校長より★ 皆さんお疲れ様でした。来校者を迎えるのは7年ぶりでしたが、とても素晴らしい楠祭だったと思います。大成功でした。皆さんのコメントから、色々な課題を、皆さんが「気づき」、「考え」、「協力して解決」して成功にたどり着いたのだということがよく分かりました。コメントの中にある「自分でできる仕事は何だろう」、「やるべきこと、できることを率先して」、「自分たちで考えて」、「仲間と協調して」、「何でも自分がやろうとするのではなく適材適所で」、「最後までやり抜く」という考え、経験は高校卒業後の皆さんの生活の中で必ず生きてくるものです。今回の楠祭で皆さんが付けた力はとても大きなものだと思います。

さて、今後の楠祭はどうなるのでしょうか。コメントにも『「例年通りに」「前回の反省を生かして」が難しかったからこそ新しい挑戦や工夫ができた』とありますが、前例踏襲から抜け出すことが大切だと思います。考えてみてください。 校長 原 拓史